

災 害 の 概 況

(平成 1 8 年)

鳥 取 県 西 部 広 域 行 政 管 理 組 合
消 防 局

目 次

(ページ数)

災害概況のまとめ	1
I. 火災概況	2
1. 出火状況	2
2. 出火原因	3
3. 死者、負傷者	3
別図 I - 1 火災件数の推移	3
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率	3
別図 I - 3 月別の火災件数	4
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率	4
別図 I - 5 経過別死者発生状況	5
別図 I - 6 経過別負傷者発生状況	5
別表 I - 1 平成 18 年の火災の概況	6
別表 I - 2 月別火災発生状況	7
別表 I - 3 市町村別火災状況	8
別表 I - 4 出火原因別火災発生概況	9
別表 I - 5 過去 10 年間の火災発生状況	10
II. 救急概況	11
1. 救急出場件数、救急搬送状況	11
2. 市町村別救急活動状況	11
3. 傷病程度別搬送状況	11
4. 年齢別搬送状況	11
5. 署所別救急活動状況	11
6. 月別救急活動状況	11
7. 現場到着所要時間、収容所要時間	11
8. 応急手当実施状況	11
9. 高度救命処置状況	11
10. 救急講習件数の推移	11
別図 II - 1 事故種別救急出場状況	12
別図 II - 2 事故種別救急搬送状況	12
別図 II - 3 過去 5 年間の救急推移	13
別図 II - 4 市町村別救急活動状況	13
別図 II - 5 傷病程度別搬送状況	14
別図 II - 6 年齢別搬送状況	14
別図 II - 7 署所別救急活動状況	15
別図 II - 8 月別救急活動状況	15

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	16
別図Ⅱ－10	収容所要時間	16
別図Ⅱ－11	応急手当実施状況	17
別図Ⅱ－12	高度救命処置状況	17
別図Ⅱ－13	過去5年間の救急講習件数推移	18
別図Ⅱ－14	過去5年間の救急講習人員推移	18
別図Ⅱ－15	応急手当指導員・普及員の養成	18

Ⅲ. 救助概況	19
1. 事故種別救助出動状況	19
2. 事故種別救助活動状況	19
3. 事故種別救助人員状況	19
4. 救助事故の死傷程度	19
5. 署所別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 1 事故種別救助出場状況	19
別図Ⅲ－ 2 事故種別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 3 事故種別救助人員状況	20
別図Ⅲ－ 4 救助事故の死傷程度	21
別図Ⅲ－ 5 署所別救助活動状況	21

Ⅳ. 119番着信概況	22
1. 概況	22
2. 月別の着信状況	22
3. 携帯電話からの着信状況	22
4. 電話種別による通報状況	22
別表Ⅳ－ 1 119番着信件数の推移	23
別表Ⅳ－ 2 月別119番着信状況	23
別表Ⅳ－ 3 電話種別による119番着信件数の推移	23
別表Ⅳ－ 4 電話種別の通報状況	24
別表Ⅳ－ 5 携帯電話からの着信状況	24
別表Ⅳ－ 6 携帯電話の消防機関別転送状況	24
別図Ⅳ－ 1 通報内容別着信状況	25
別図Ⅳ－ 2 月別着信状況	25
別図Ⅳ－ 3 携帯電話と固定電話からの着信比率の推移	26
別図Ⅳ－ 4 時間帯別着信件数の推移	26

災害概況のまとめ

(平成18年1月～12月)

I. 火災概況

平成18年中の火災件数は112件で、前年に比べ17件少なくなっています。

しかしながら、建物火災は4件増の86件となっており、全火災の76%を占めているのが特徴となっています。

焼損面積、損害額については、ともに減少しています。

死者については5人で大幅な減少（前年比－5人）を見せていますが、これは放火自殺がなかったことによるものです。ただ、亡くなられた方のうち半数以上が「逃げ遅れ」によるものであることから、今後の高齢化社会に備え、平成18年6月に義務化された「住宅用火災警報器」をはじめとする住宅用防災機器の普及を更に推し進めていくことが急務と考えられます。

出火原因については、例年上位を占めている「放火・放火の疑い」が、引き続き第1位であることから、放火されない環境づくりの整備が必要です。また、同じく第1位の「こんろ」については、ほとんどの場合が使用中にその場を離れたため発生していることから、「使用中はその場を離れない、離れるときは一旦火を消す」といった習慣を身につけることが重要となっています。

II. 救急概況

救急出動件数は前年より273件増加し9,125件で、過去最高となっています。

救急搬送人員も同様に60人増加し、この増加分は高齢者の搬送人員数の増加と一致しています。西部圏域の高齢者人口の割合が全国平均より高いことなどから、この傾向は今後も続くものと推測されます。

事故種別の出場件数では、前年に比べ急病が250件、一般負傷が67件増加しています。心肺停止に陥った傷病者の内、一般市民と救急救命士の救命の連鎖により、7名の圏域住民の生命が救命され社会復帰を果たしています。

一般市民がAEDを使用できるようになったことで、救える命を確実に救うため地域住民と連携した病院前救護体制の一層の充実・強化が必要となっています。

III. 救助概況

救助出動件数で最も多いものは、交通事故の96件で全体の42%を占め、次いで火災、その他の事故の順になっています。

特に近年は地震、台風などの自然災害が大規模化し、人的、物的に多大な被害を生じていることに加え、NBC・テロ災害が起こりうる状況であることから、あらゆる災害に対応するためのより高度な救助資機材の整備を推進する必要があります。

IV. 119番着信状況概況

本年中の総着信件数は12,700件でした。現在、固定電話、携帯電話、IP電話の3種類の電話から119番着信があります。今年からIP電話を統計上に載せております。IP電話での着信件数は17年中67件、18年中310件と増加傾向にあります。年々増加していた携帯電話による通報件数が、横ばい傾向となっています。

また、警戒等に入れておりました救助通報を、通報内容の項目に今年から載せております。

I. 火災概況

(平成18年1月～12月)

1. 出火状況

(1) 火災件数

平成18年中の火災件数は112件で、前年に比べ17件(13%)減少しているものの、過去10年間の平均値(平均火災件数 112件)と同数となっています。

(別表I-1. 別表I-5. 別図I-1 参照)

(2) 火災種別

火災の種別による構成比をみると、建物火災が全体の76%で、最も高い比率を占め、次いでその他火災13%、車両火災10%、林野火災1%の順となっています。

(別表I-1. 別図I-2 参照)

(3) 月別

月別の火災件数を見ると、4月が16件で最も多く、次いで5月の14件、10月の12件、1月、2月の11件と続いています。

種別ごとの発生状況では、建物火災は4月(12件)に最も多く発生しています。

また、その他火災は年間を通じて月に1件から2件の割合で発生しています。

死者は3月に、負傷者は2月から8月の間に多く発生しています。

(別表I-2. 別図I-3 参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数を見ると市部(米子市・境港市)が全体の72%を占めています。

町村部では、大山町と日南町の件数・割合が他町と比べ多くなっています。

(別表I-3. 別図I-4 参照)

(5) 損害額

損害額は約2億8802万円で、前年(3億6021万円)に比べ、7219万円少なくなっています。

火災種別ごとの損害額を見ると建物火災によるものが、全体の99%を占めています。

また、月別の損害額をみると、4月が全体の23%を占め、次いで1月の18%となっています。

(別表I-1. 別表I-2 参照)

2. 出火原因

出火原因の第1位は「放火・放火の疑い」と「こんろ」の12件で、続いて「ストーブ」（6件）、「火あそび」、「たき火」（5件）の順となっています。

（別表Ⅰ－4参照）

3. 死者・負傷者

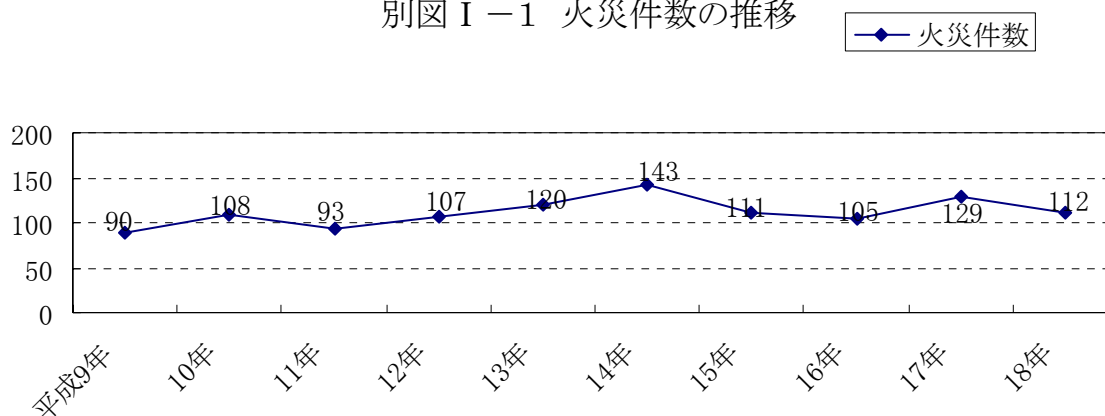
死者数は5人で、前年の10人に比べ大幅に減少していますが、負傷者は前年と同数の19人となっています。

死者の発生経過をみると、5人中3人が「逃げ遅れ」によるものです。

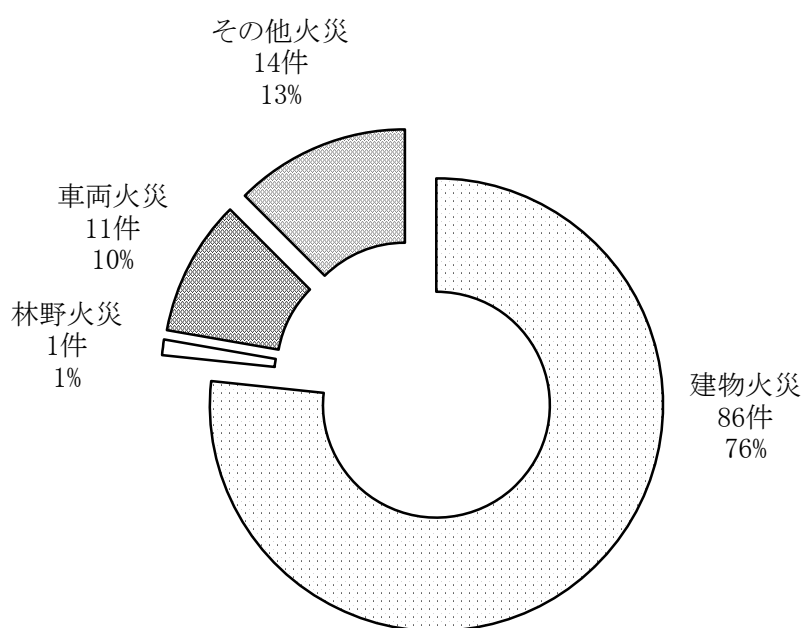
また、負傷者は「初期消火中」などの際に多く発生しています。

（別表Ⅰ－1．別図Ⅰ－5．別図Ⅰ－6参照）

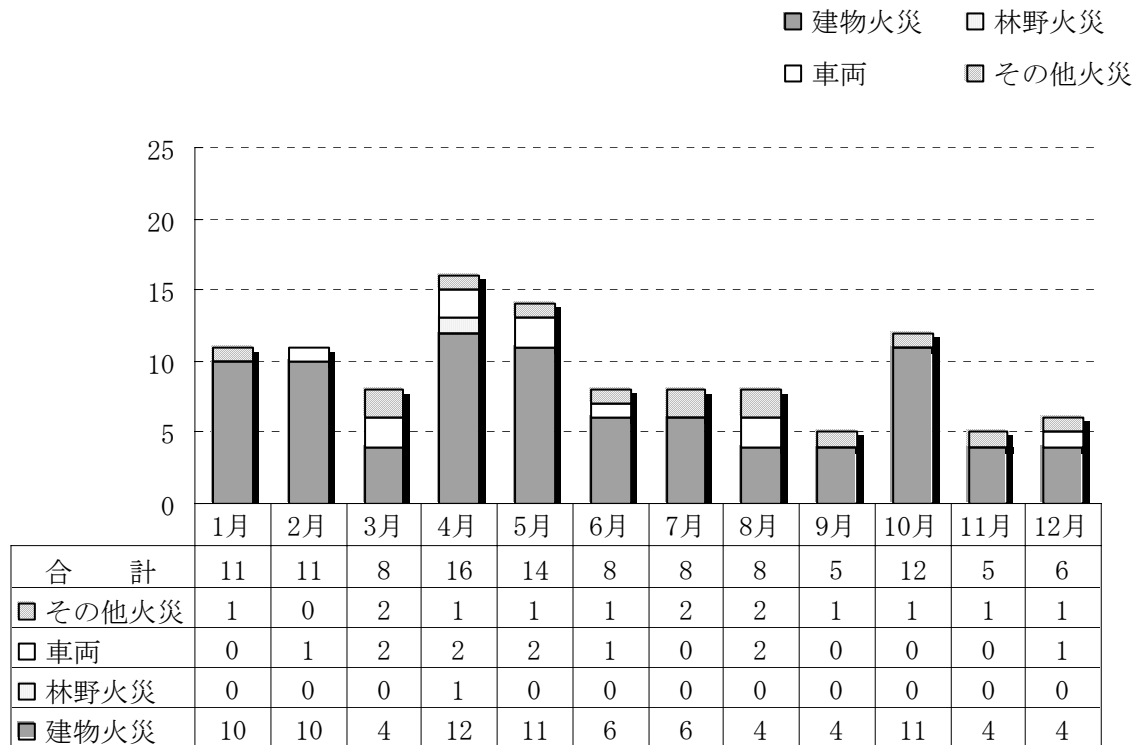
別図Ⅰ－1 火災件数の推移



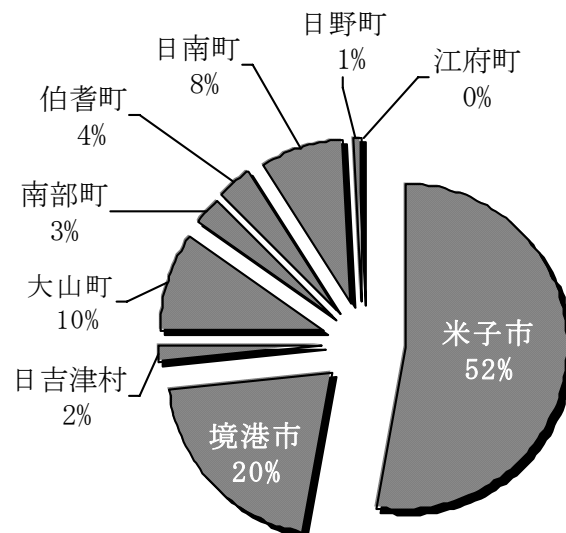
別図Ⅰ－2 火災種別ごとの件数と構成比率



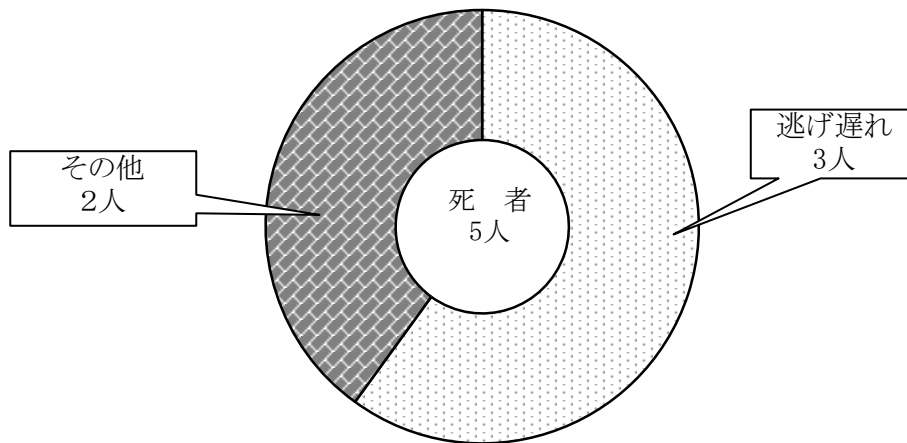
別図 I - 3 月別の火災件数



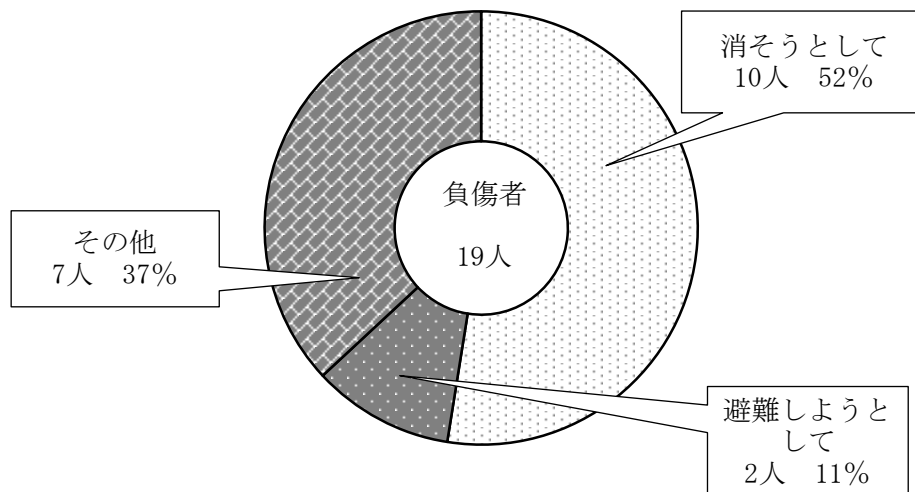
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率



別図 I－5 経過別死者発生状況



別図 I－6 経過別負傷者発生状況



別表Ⅰ－１ 平成１８年の火災の概況

区 分		平成１８年 A	平成１７年 B	増 減 C (A－B)	増 減 率 C／B (%)
火 災 件 数 (件)		1 1 2 (100%)	1 2 9 (100%)	- 1 7	-13%
建 物 火 災		8 6 (76%)	8 2 (63%)	4	5%
林 野 火 災		1 (1%)	5 (4%)	- 4	-80%
車 両 火 災		1 1 (10%)	1 7 (13%)	- 6	-35%
船 舶 火 災		()	1 (1%)	- 1	-100%
そ の 他 火 災		1 4 (13%)	2 4 (19%)	- 1 0	-42%
焼 損 棟 数 (棟)		1 3 7 (100%)	1 6 0 (100%)	- 2 3	-14%
全 焼		2 8 (20%)	5 5 (34%)	- 2 7	-49%
半 焼		1 3 (10%)	1 9 (12%)	- 6	-32%
部 分 焼		5 5 (40%)	3 8 (24%)	1 7	45%
ぼ や		4 1 (30%)	4 8 (30%)	- 7	-15%
罹災世帯数(世帯)		7 8 (100%)	1 0 1 (100%)	- 2 3	-23%
全 損		1 8 (23%)	3 9 (39%)	- 2 1	-54%
半 損		9 (12%)	1 3 (13%)	- 4	-31%
小 損		5 1 (65%)	4 9 (48%)	2	4%
罹 災 人 員 (人)		2 3 8	2 6 7	- 2 9	-11%
焼 損 面 積	建物(㎡)	5, 7 2 1	8, 1 2 4	- 2, 4 0 3	-30%
	林野(a)		1 3 6	- 1 3 6	-100%
損 害 額 (千 円)		2 8 8, 0 2 4	3 6 0, 2 1 9	- 7 2, 1 9 5	-20%
建 物 火 災		2 8 4, 6 5 9	3 4 9, 4 3 7	- 6 4, 7 7 8	-19%
林 野 火 災			5 6 3	- 5 6 3	-100%
車 両 火 災		2, 5 7 6	9, 6 8 9	- 7, 1 1 3	-73%
船 舶 火 災			2 0 0	- 2 0 0	-100%
そ の 他 火 災		7 8 9	3 3 0	4 5 9	139%
1 件 当 り 損 害 額 (千円)	火災全体	2, 5 7 2	2, 7 9 2	- 2 2 0	-8%
	建物火災	3, 3 1 0	4, 2 6 1	- 9 5 1	-22%
1 件 当 り 損 害 面 積	建物(㎡)	6 7	9 9	- 3 2	-32%
	林野(a)		2 7	- 2 7	-100%
死 者 (人)		5	1 0	- 5	-50%
負 傷 者 (人)		1 9	1 9	0	-
出火率(人口1万人当り)		4. 4 8	5. 1 4	- 0. 6 6	-13%

備考 () 内は構成比を示す なお、損害額については概数

別表Ⅰ－２ 月別火災発生状況

	合 計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災		焼損棟数					り災世帯					死 者	負 傷 者	30日以内死亡
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	り災人員			
1月	11	50,834	10	50,751	1706								1	83	27	8	1	14	4	18	6		12	44			
2月	11	20,268	10	20,250	361				1	18					14	2	1	9	2	6	1		5	21		5	
3月	8	26,690	4	26,439	204				2	251			2		5	1		2	2	3	1		2	8	2	2	1
4月	16	67,603	12	67,483	1423	1			2	120			1		19	6		7	6	14	3	2	9	40	1	2	
5月	14	23,619	11	23,586	293				2	32			1	1	15	1	2	5	7	11	1	1	9	34	1	1	
6月	8	25,261	6	24,361	340				1	900			1		7	1		3	3	4	1		3	20		1	
7月	8	7,650	6	7,650	329								2		8	4		2	2	3	1		2	8	1	2	1
8月	8	3,476	4	2,411	116				2	1,065			2		4	1		2	1	1	1			2		4	
9月	5	37,878	4	37,878	469								1		10	1	4	1	4	5	2		3	20			
10月	12	2,946	11	2,945	163								1	1	15	1	3	7	4	5		2	3	16		1	
11月	5	2,362	4	2,352	163								1	10	8	2	1		5	3	1		2	6			
12月	6	19,437	4	18,553	154				1	190			1	694	5		1	3	1	5		4	1	19		1	
合計	112	288,024	86	284,659	5,721	1			11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19	2

別表Ⅰ－３ 市町村別火災状況

	火 災 件 数						焼 損 面 積			焼損棟数					り災世帯数				り 災 人 員	死 者	負 傷 者	3 0 日 以 内 死 亡	損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	床 面 積 ㎡	表 面 積 ㎡	林 野 a	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	合 計	全 損	半 損	小 損					
米 子 市	59	50		4		5	2,174	61		73	11	7	33	22	35	8	6	21	124	3	8	2	147,769
境 港 市	23	18		1		4	2,286	30		37	8	3	13	13	31	6	2	23	84		2		84,579
日吉津村	2			1		1																	50
大 山 町	11	6		3		2	366	9		8	3		2	3	3	1		2	12	2	3		32,346
南 部 町	3	2		1			146	11		6	2	1	3		3	1	1	1	6		2		3,034
伯 耆 町	4	2	1			1	22			2		1		1	1			1	2		1		1,193
日 南 町	9	8				1	727	19		11	4	1	4	2	5	2		3	10		3		18,123
日 野 町	1			1																			930
江 府 町	0																						
合 計	112	86	1	11		14	5,721	130		137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19	2	288,024

別表 I - 4 出火原因別火災発生概況

原因別	出火件数							損害額（千円）	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合計	112	86	1	11			14	288,024	5	19
たばこ	2	2						16,970		1
こんろ	12	12						13,830		5
かまど										
風呂かまど	3	3						39,807		
炉	1	1						921		
焼却炉	1	1						70		
ストーブ	6	6						11,382		2
こたつ										
ボイラー										
煙突・煙道	1	1						3		
排気管	1			1				900		
電気機器	3	2		1				75		
電気装置										
電灯・電話等の配線	4	3					1	29,776		
内燃機関	1			1				70		
配線器具	2	1		1				1,687		
火あそび	5	5						12,024		
マッチ・ライター	2	2						145		1
たき火	5	1	1				3	1,371	2	1
溶接機・切断機	3	3						308		
灯										
衝突の火花										
取灰										
火入れ	4						4			
放火	5	5						3,079		
放火の疑い	7	6					1	8,129		
その他	15	11		3			1	37,503		1
不明・調査中	29	21		4			4	109,974	3	8

別表 I - 5 過去10年間の火災発生状況

区分	合 計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災		焼損棟数					罹災世帯					死 者	負 傷 者
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	罹災人員 (人)		
9年	90	253,810	51	248,846	2,922	6		15	14	4,516			19	448	74	19	6	35	14	48	10	5	33	165	4	17
10年	108	205,257	73	178,798	3,352	3	65	50	8	21,483			24	1,509	92	27	10	29	26	49	13	6	30	161	5	6
11年	93	404,896	61	401,903	5,393	4		319	10	1,691	2	718	16	584	94	35	7	27	25	57	19	4	34	197	5	15
12年	107	156,560	63	138,370	2,763	7		16	13	13,991	1	4,000	23	199	83	20	8	26	29	50	12	5	33	151	4	10
13年	120	232,096	63	200,616	3,416	5	5,207	199	21	21,315	1	4,500	30	458	88	26	7	29	26	55	13	5	37	195	6	11
14年	143	261,812	72	252,724	4,364	10	1,638	453	13	6,538			48	912	105	33	5	40	27	66	17	2	47	207	8	21
15年	111	145,855	73	143,834	3,875	2		6	14	1,588			22	433	99	23	11	37	28	62	17	10	35	191	9	23
16年	105	254,660	69	249,412	5,900	6	5	30	14	5,243			16		103	27	12	33	31	56	11	6	39	190	4	18
17年	129	360,219	82	349,437	8,124	5	563	136	17	9,689	1	200	24	330	160	55	19	38	48	101	39	13	49	267	10	19
18年	112	288,024	86	284,659	5,721	1			11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19

Ⅱ．救急概況

(平成18年1月～12月)

1．救急出場件数、救急搬送状況

平成18年中の救急出場件数は17年中に比べて3.1%増加し9,125件、搬送人員は0.7%増加し8,473人で、ともに過去最高となりました。

(別図Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅱ－3参照)

2．市町村別救急活動状況

市町村別では、米子市の救急出場件数及び搬送人員がそれぞれ5,257件(57.6%)、4,825人(56.9%)と最も多く、過半数を占めています。

(別図Ⅱ－4参照)

3．傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が3,998人(47.2%)で最も多く、次いで軽症が3,005人(35.5%)となっています。

(別図Ⅱ－5参照)

4．年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の老人(高齢者)が70人増加し4,487人(52.9%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－6参照)

5．署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出場件数及び搬送人員がそれぞれ3,201件(35.1%)、2,909人(34.3%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－7参照)

6．月別救急活動状況

月別の出場件数と搬送人員では、1月がそれぞれ880件(9.6%)、809人(9.5%)で最も多く、続いて12月の836件(9.2%)、761人(9.0%)となっています。

(別図Ⅱ－8参照)

7．現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分10秒、平均収容所要時間は32分33秒でした。

(別図Ⅱ－9、Ⅱ－10参照)

8．応急手当実施状況

心肺停止傷病者のうち家族等により応急手当を受けた人は、118人でした。

(別図Ⅱ－11参照)

9．高度救命処置状況

心肺停止傷病者260人のうち172人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち17人に回復が見られました。

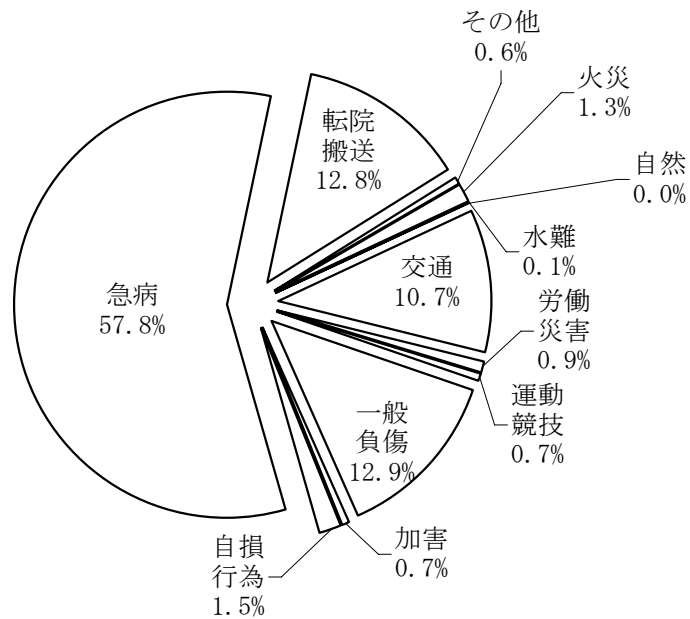
(別図Ⅱ－12、Ⅱ－13参照)

10．救急講習件数の推移

西部消防局で過去5年間に実施した救急講習に、毎年10,000人以上の人が受講されています。

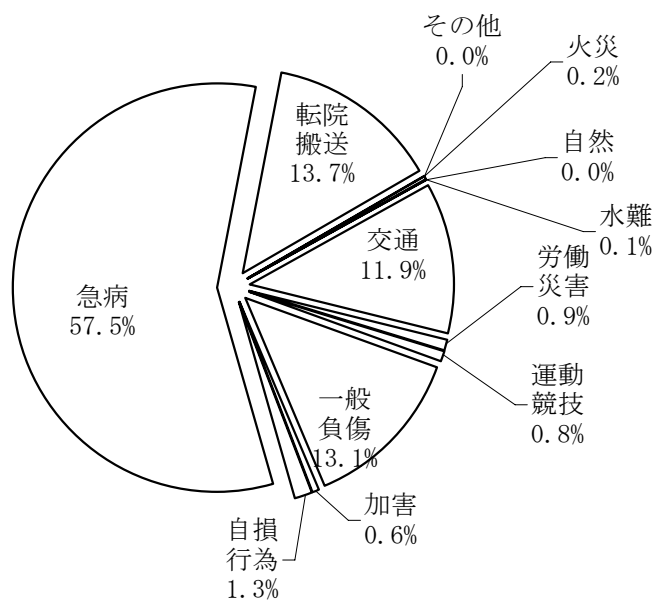
(別図Ⅱ－14、Ⅱ－15参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出場状況



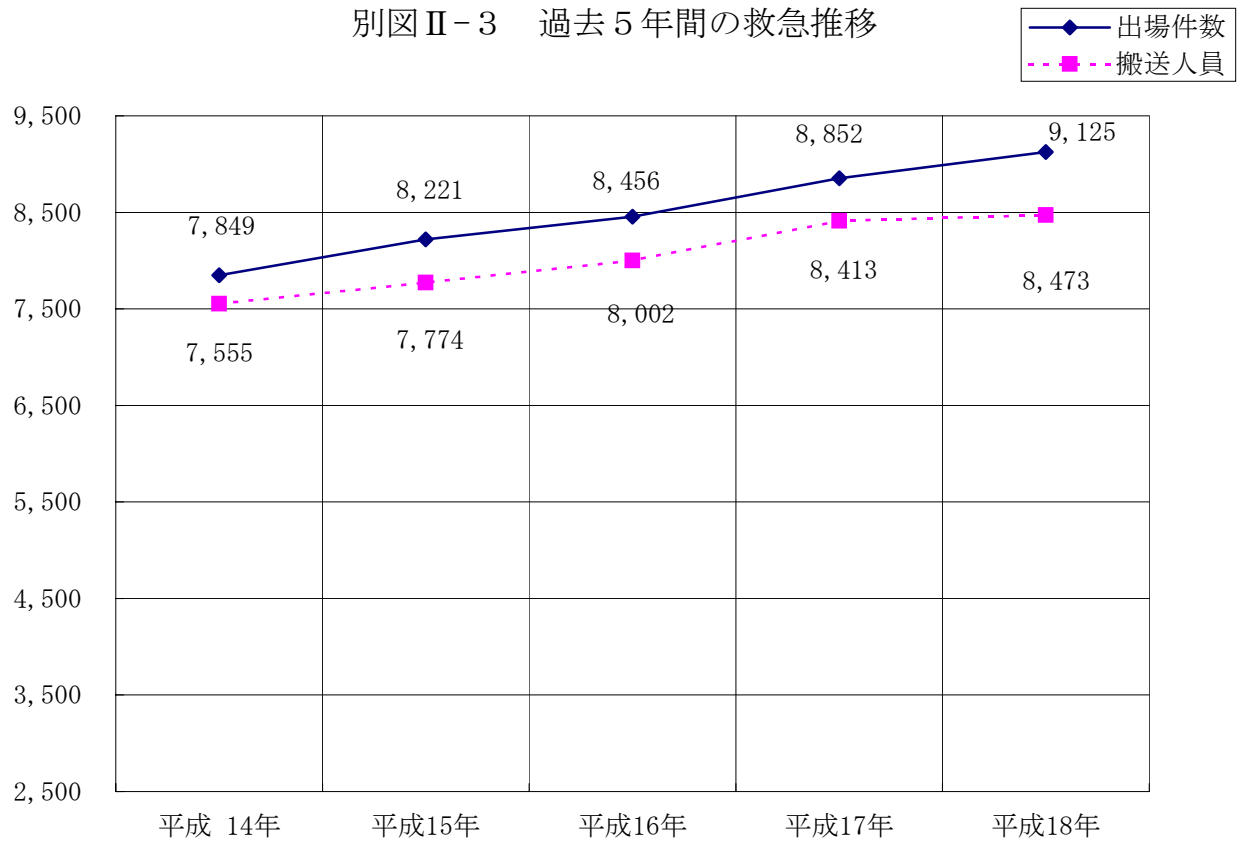
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出場件数	118	0	12	973	78	65	1,180	61	138	5,277	1,167	56	9,125

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

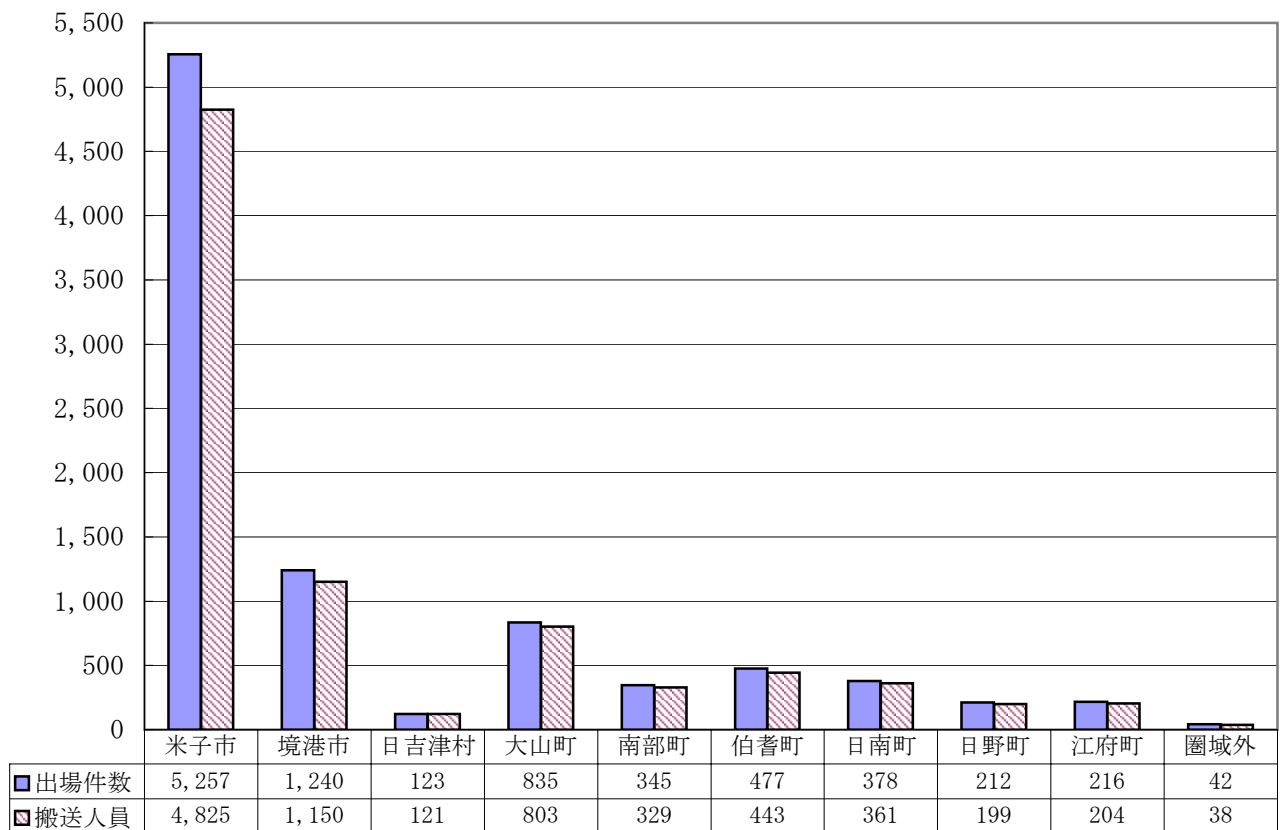


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	18		7	1,005	75	65	1,113	49	108	4,869	1,164		8,473

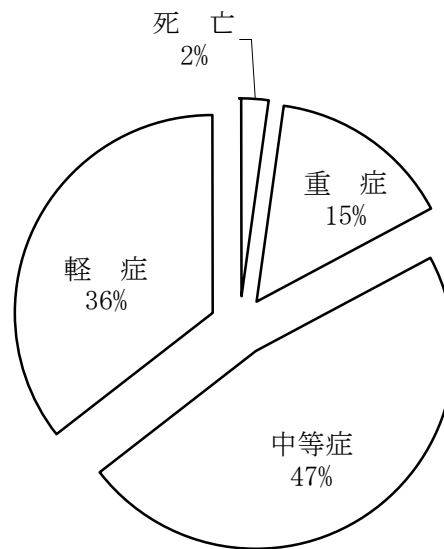
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

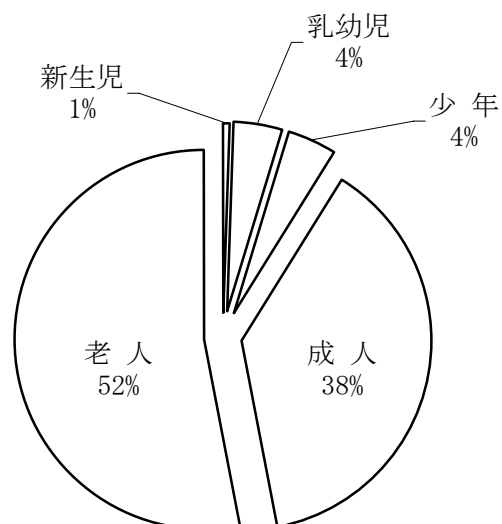


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



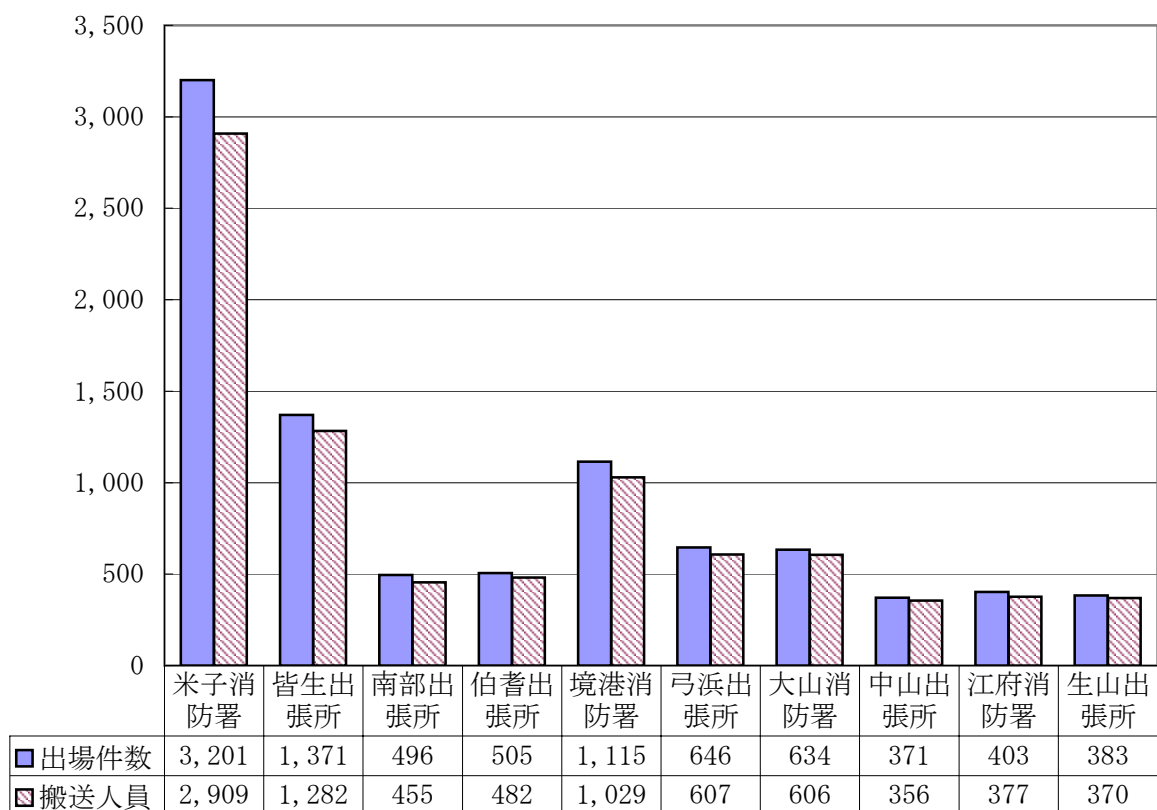
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	193	1,254	3,998	3,005	23	8,473

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

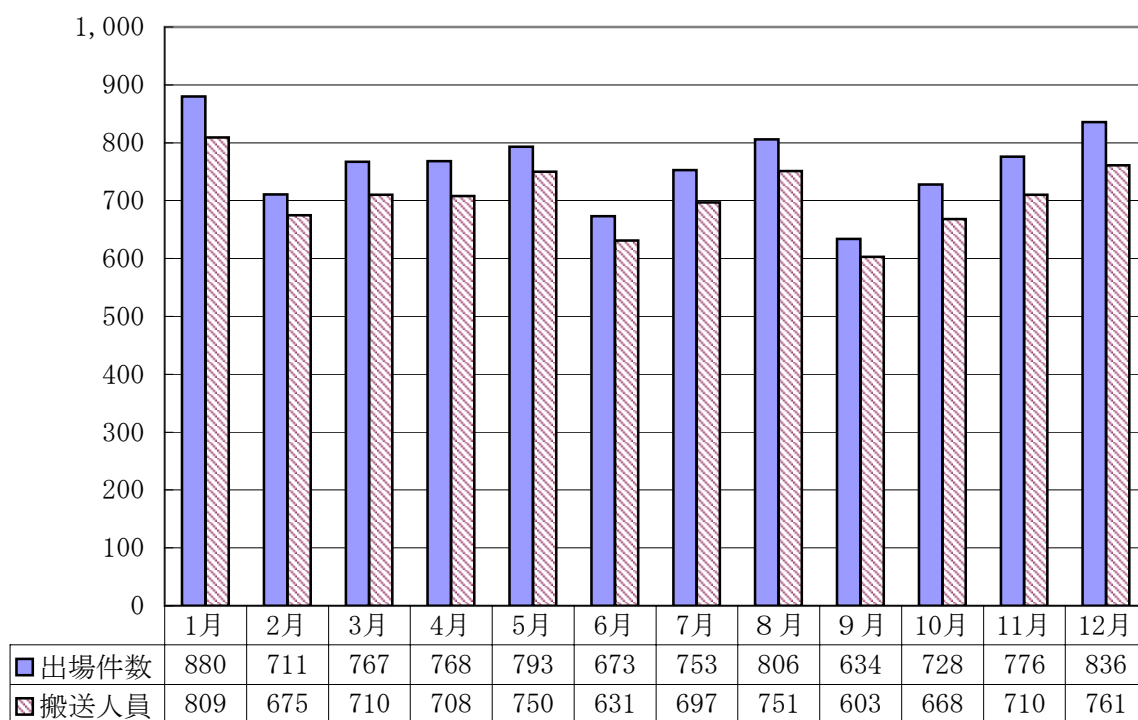


	新生児	乳幼児	少年	成人	老人	合 計
搬送人員	56	348	339	3,243	4,487	8,473

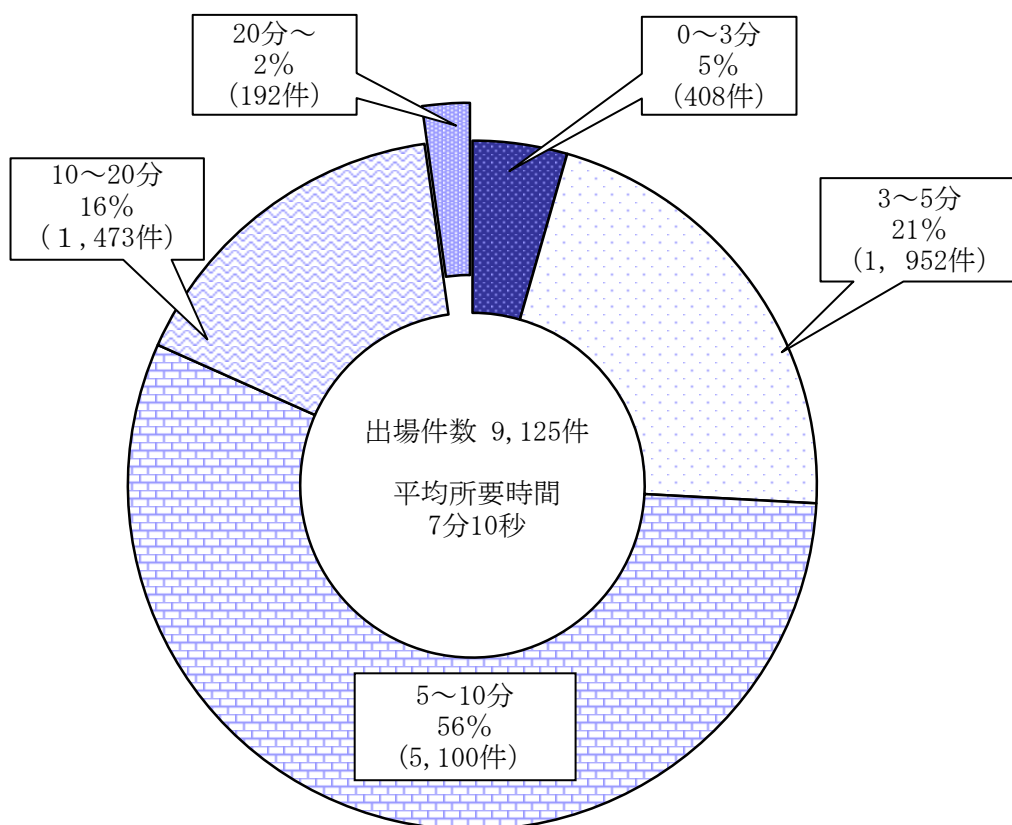
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



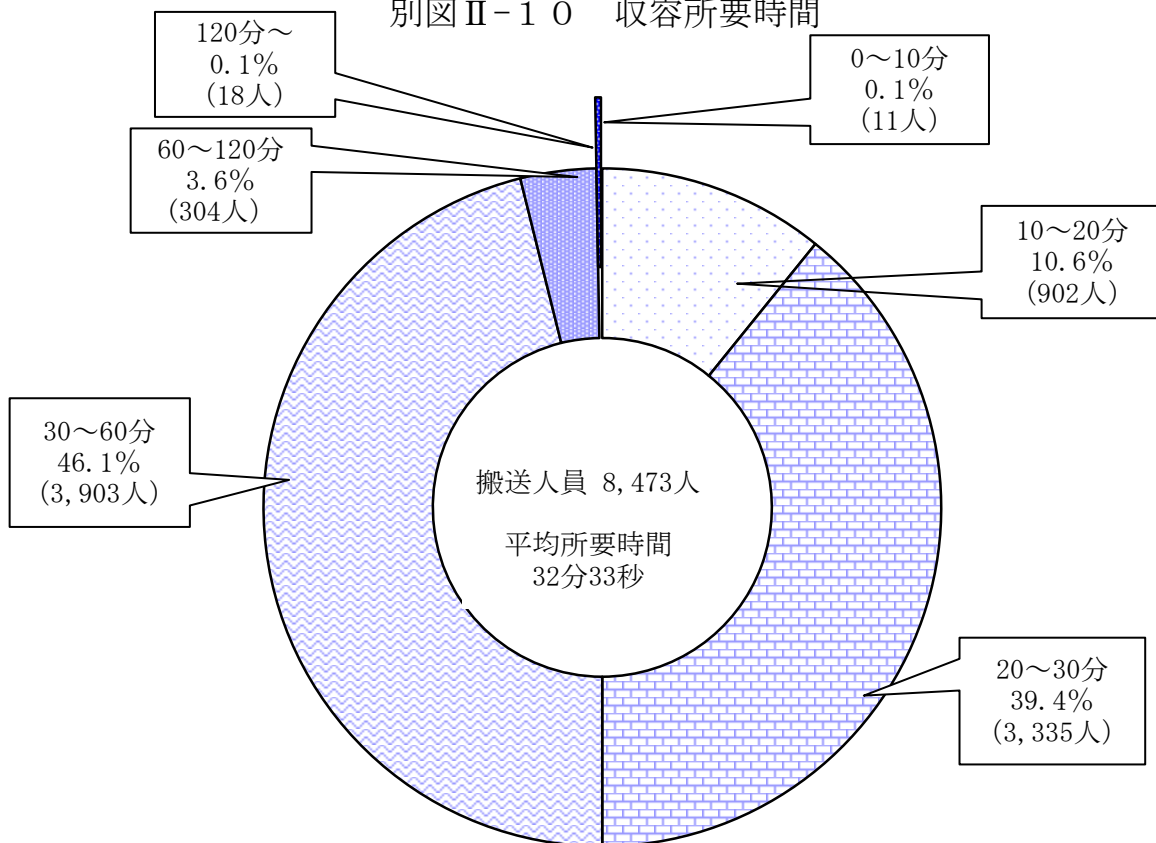
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



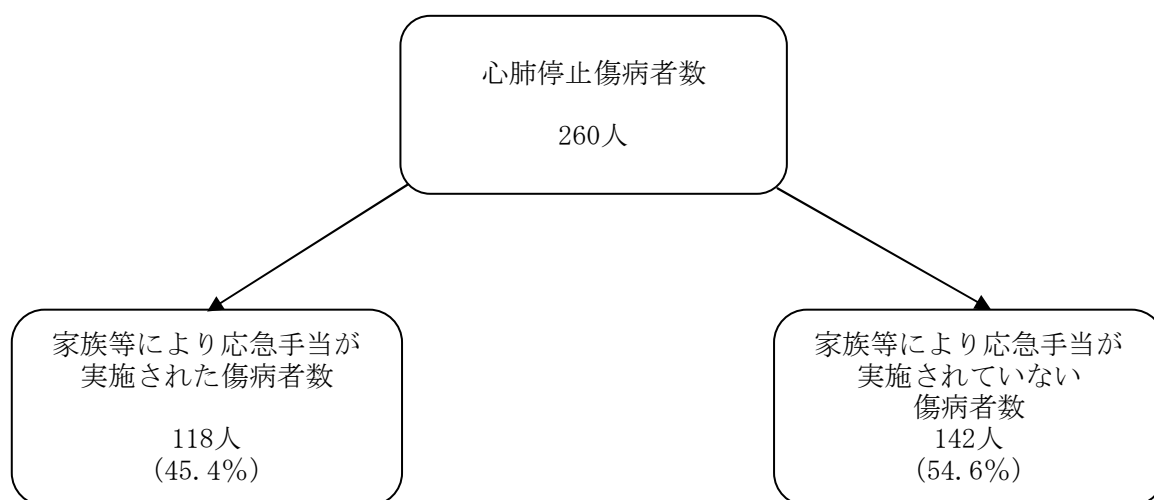
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



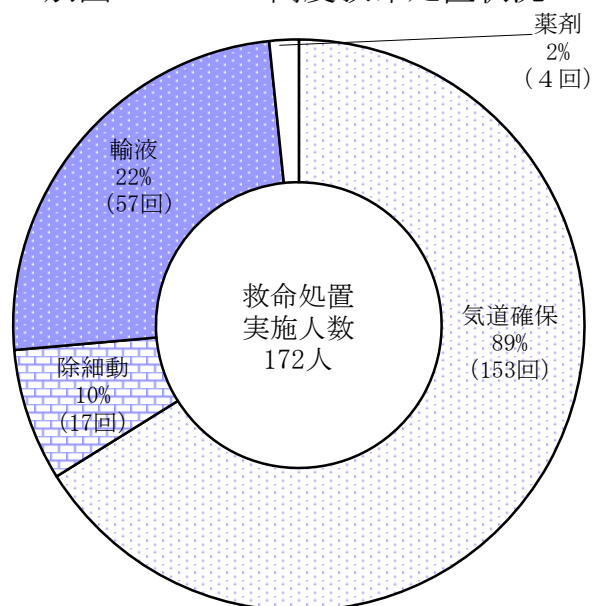
別図Ⅱ-10 収容所要時間



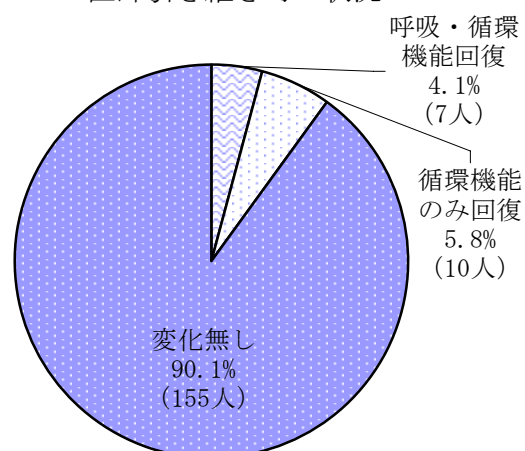
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



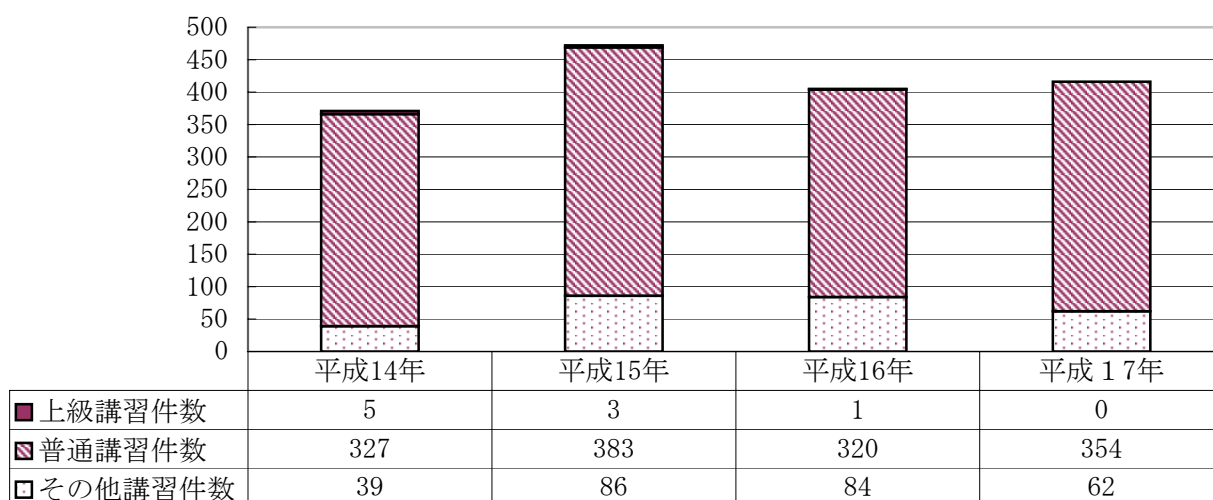
別図Ⅱ-1 2 高度救命処置状況



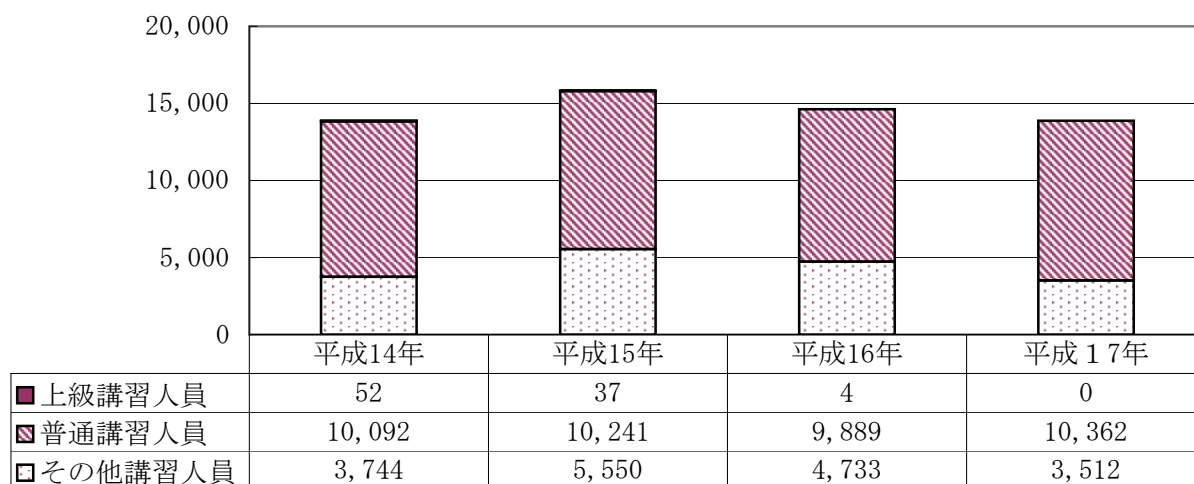
別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１３ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習人員推移



別図Ⅱ－１５ 応急手当指導員・普及員の養成

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
応急手当指導員	4	7	24	0	0
応急手当普及員	15	8	0	33	12

Ⅲ．救助概況

(平成18年1月～12月)

1．事故種別救助出場状況

救助出場件数は230件あり、そのうち交通事故が96件(41.7%)、火災が83件(36.1%)、その他の事故が33件(14.3%)、水難事故が11件(4.7%)となっています。

(別図Ⅲ－1 参照)

2．事故種別救助活動状況

救助活動件数は101件あり、そのうち交通事故が57件(56.4%)、その他の事故が24件(23.8%)、水難が10件(9.9%)となっています。

(別図Ⅲ－2 参照)

3．事故種別救助人員状況

救助された人員は101人あり、そのうち交通事故が60人(59.4%)と最も多く、その他の事故が27人(26.7%)、水難が10人(9.9%)となっています。

(別図Ⅲ－3 参照)

4．救助事故の死傷程度

救助された死傷者の程度は、中等症が33人と最も多く、次いで軽症が28人、重症が19人、死亡が15人、その他が6人となっています。

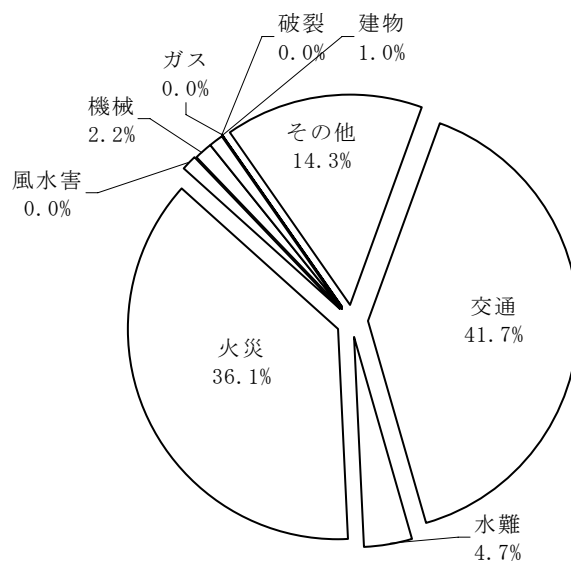
(別図Ⅲ－4 参照)

5．署別救助活動状況

署別の出場件数では、米子消防署が130件と最も多く、次いで境港消防署が35件、大山消防署が34件、江府消防署が31件となっています。

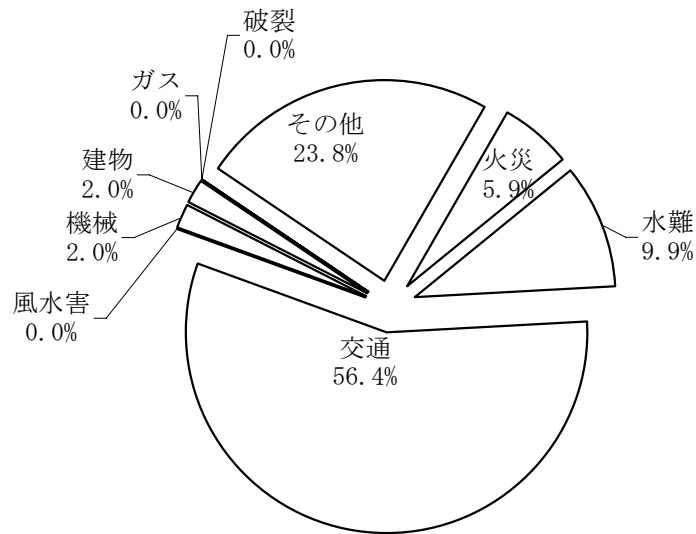
(別図Ⅲ－5 参照)

別図Ⅲ－1 事故種別救助出場状況



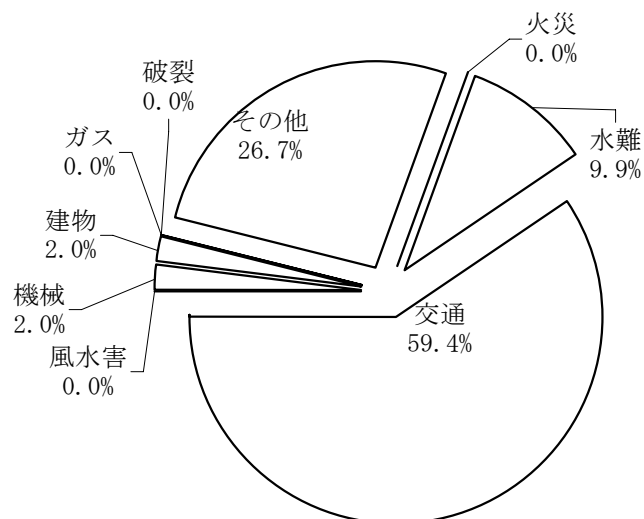
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	83	11	96	0	5	2	0	0	33	230

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



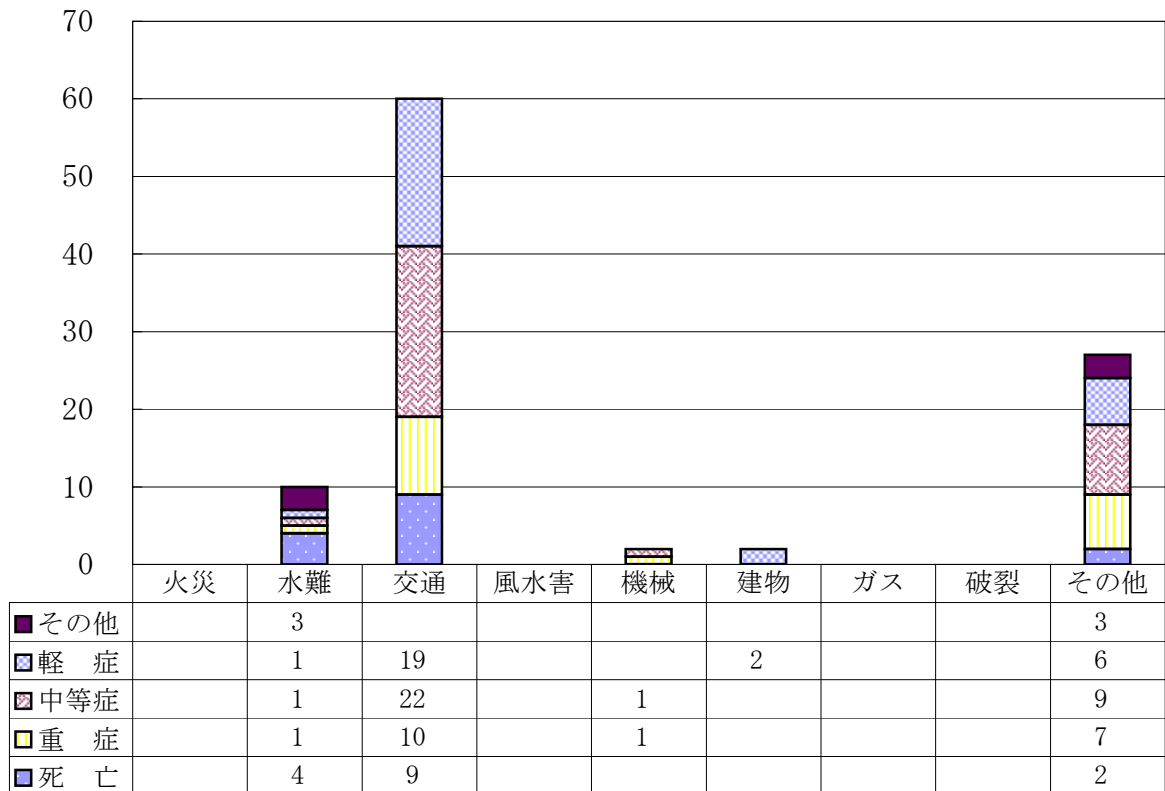
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	6	10	57	0	2	2	0	0	24	101

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

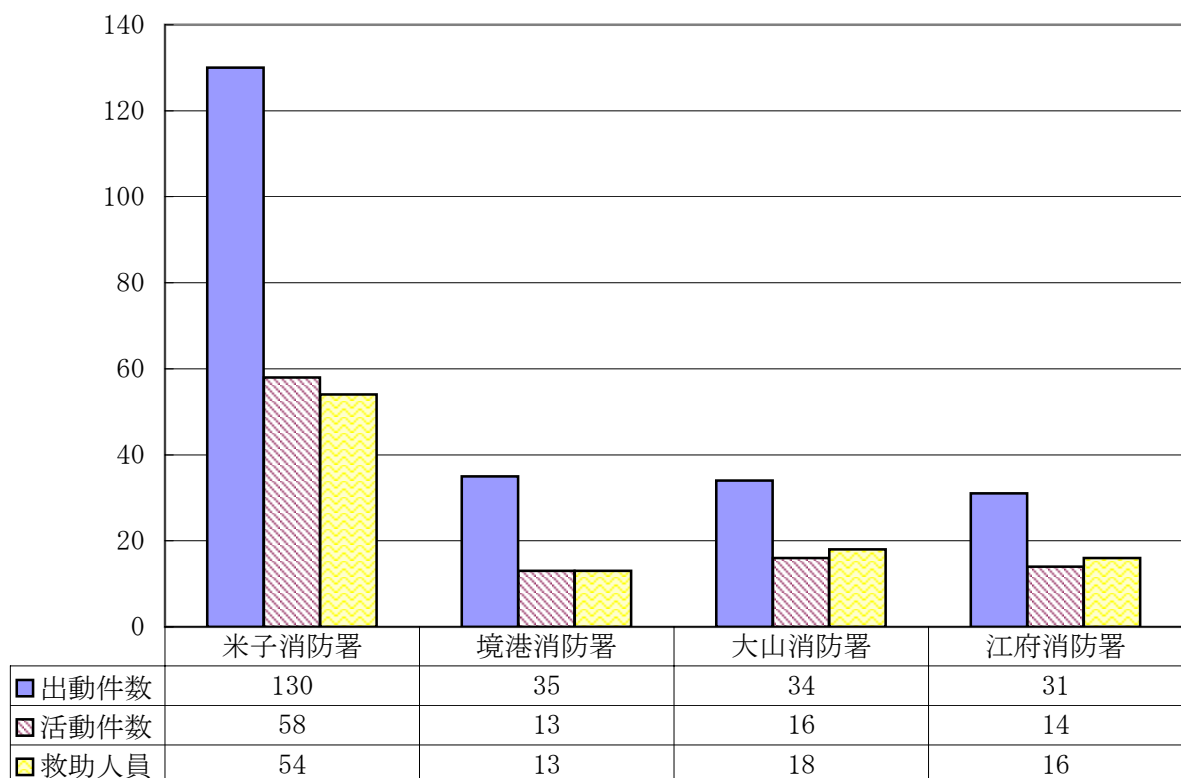


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員		10	60	0	2	2	0	0	27	101

別図Ⅲ-4 救助事故の死傷程度



別図Ⅲ-5 署別救助活動状況



IV. 119番着信状況

(平成18年1月1日～12月31日)

1. 概況

平成18年中の119番通報は、総着信件数で12,700件ありました。1ヶ月平均にすると約1,058件、1日平均では約35件の着信となります。

通報内容としては、やはり救急通報が最も多く8,847件(69%)でした。

火災通報は347件(3%)で去年より54件少なくなっています。そのほかの通報としては、間違いが894件、通報訓練などの通報が1,038件、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が1,200件となっており、いたずらと思われるものも197件ありました。昨年まで救助件数を警戒等に合算し、表記していませんでしたが、今年の概況から救助として載せています。

(別表IV-1 別図IV-1 参照)

2. 月別の着信状況

月別での平均着信件数は、1,058件、最も多かったのは12月の1,146件逆に最も少なかった月は6月の927件です。火災通報は月平均約29件、最も多かったのは4月の65件、逆に最も少なかったのは7月の12件でした。救急通報の月平均着信件数は737件で各月に大きな変化はありません。時間帯別119番通報の着信件数は睡眠時間帯に件数が低下、活動時間帯に増加しています。

(別表IV-2 別図IV-2、4 参照)

3. 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は3,132件で、全着信件数の26%でした。

携帯電話で119番通報されますと、必ずしも電話をされた地区を管轄する消防に接続されるとは限りません。管轄地区以外からの通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応してもらいます。またその逆もあります。これを転送処理件数として別表としています。他の消防機関との転送処理件数は74件ありました。

携帯電話による通報では発信地表示システムが使用できないため、災害現場把握に時間を多く必要とします。できるだけ固定電話での通報をお願いします。

(別表IV-3、5、6 別図IV-3 参照)

4. 電話種別による通報状況

平成10年10月から運用開始した携帯電話等からの119番受信件数は毎年増加していましたが、月に260件程度で横ばい傾向です。17年よりIP電話からの119番通報ができるようになりました。統計上也載せていますが、18年中は310件あり、増加傾向にあります。

(別表IV-3、4 別図IV-3 参照)

別表Ⅳ－１

１１９番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
平成１４年	342	7,347	－	125	978	442	1,268	1,606	12,108
平成１５年	244	7,677	－	132	1,070	362	1,185	1,554	12,224
平成１６年	308	7,879	－	130	1,147	514	1,057	1,745	12,780
平成１７年	401	8,554	－	140	1,137	259	962	1,635	13,088
平成１８年	347	8,847	73	104	1,200	197	894	1,038	12,700

別表Ⅳ－２

月別１１９番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１月	38	834	10	6	125	17	69	39	1,138
２月	19	704	3	6	86	11	61	38	928
３月	24	755	7	6	88	20	77	101	1,078
４月	65	785	6	10	111	15	68	88	1,149
５月	33	759	4	9	113	24	75	73	1,090
６月	20	648	4	5	70	17	62	101	927
７月	12	726	5	21	114	15	80	68	1,041
８月	19	770	5	11	119	12	76	51	1,063
９月	32	615	5	4	103	17	93	89	958
１０月	26	696	12	9	92	10	90	132	1,067
１１月	22	742	6	9	90	24	71	151	1,115
１２月	37	813	6	8	89	15	72	107	1,146
合計	347	8,847	73	104	1,200	197	894	1,038	12,700
月平均	29	737	6	9	100	16	75	87	1,058

別表Ⅳ－３ 電話種別による１１９番着信件数の推移

	携帯電話からの着信件数	固定電話からの着信件数	I P 電 話	合 計
平成１４年	２，８２９	９，２７９		１２，１０８
平成１５年	２，８７３	９，３５１		１２，２２４
平成１６年	３，３５５	９，４２５		１２，７８０
平成１７年	３，３２１	９，７６７	６７	１２，６４６
平成１８年	３，１３２	９，２５８	３１０	１２，７００

別表Ⅳ－４ 電話種別の通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１１９固定	１７８	６，８０７	２９	６５	６６６	９７	５２０	８９６	９，２５８
１１９携帯	１６４	１，８６５	４２	３９	５１２	９８	３６０	５２	３，１３２
１１９ I P	５	１７５	２	０	２２	２	１４	９０	３１０
総合計	３４７	８，８４７	７３	１０４	１，２００	１９７	８９４	１，０３８	１２，７００

別表Ⅳ－５ 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数		他の消防機関に転送をした件数	総着信件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	３６	３，１３２
３，０５８	３８		

別表Ⅳ－6

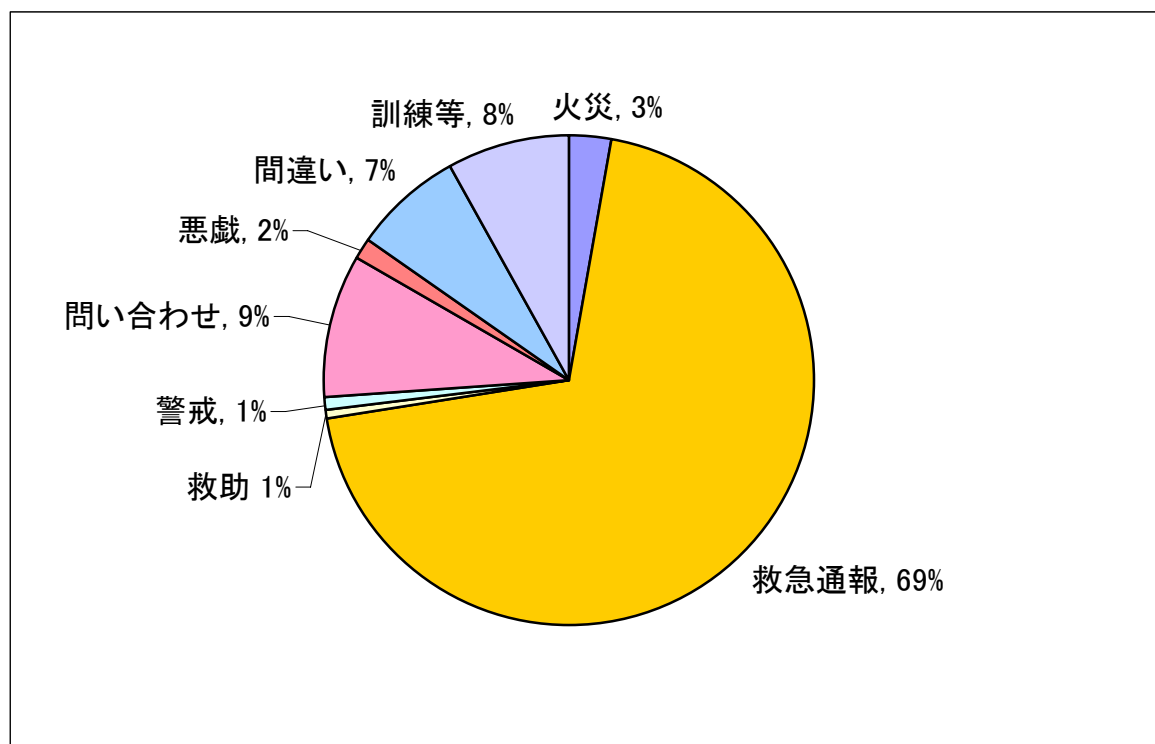
携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関に転送した件数				
消防	火 災	救 急	その他	合 計
松 江		1 4	4	1 8
安 来		9	2	1 1
雲 南				
東 部				
中 部		5		5
新 見				
真 庭		2		2
津 山				
備 北				
合 計		3 0	6	3 6

他の消防機関から転送を受信した件数				
消防	火 災	救 急	その他	合 計
松 江		4		4
安 来		2 2	4	2 6
雲 南				
東 部		1		1
中 部		5	1	6
新 見		1		1
真 庭				
津 山				
備 北				
合 計		3 3	5	3 8

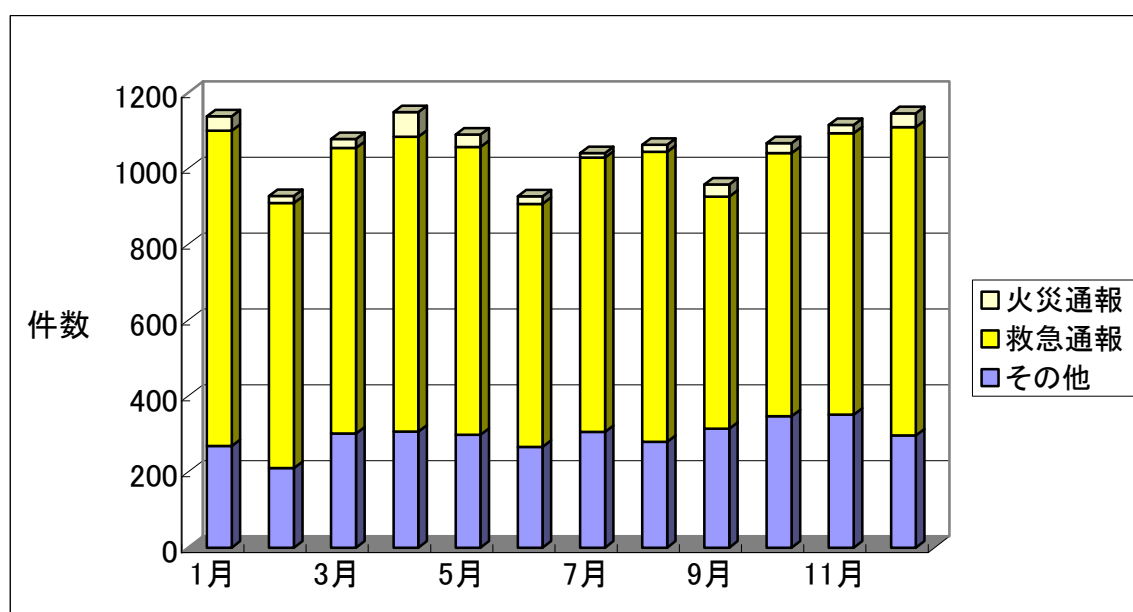
別図Ⅳ－ 1

通報内容別着信状況

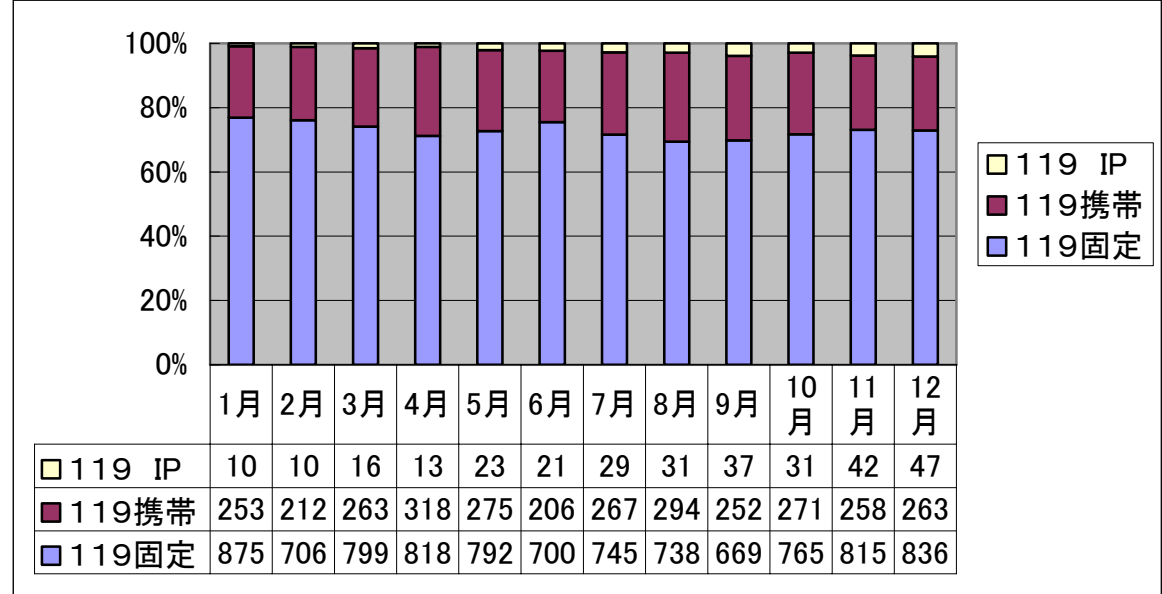


別図Ⅳ－ 2

月別着信状況



別図Ⅳ－３ 携帯電話と固定電話からの着信比率の推移



別図Ⅳ－４ 時間帯別着信件数の推移

